

よい問題は数学研究の発展と教育の向上に寄与します。よい問題の作成のためには他の分野との関係を探り(広がり)、数学の応用や発展の歴史に配慮し(有効性)、論理だけでなく直感も加える(刺激的)とよいでしょう。また、自分がよくは理解していない数学の紹介に臆病になってはいけません。高校生の琴線に触れることが重要なのです。よい問題との出会いは学問への目覚めを誘います。ガウスに数学の道を決断させたのは17角形の作図問題であり、岡潔が物理から数学に転向した背景には5次方程式の解法の問題がありました。そして、「数学に目覚め、数学者たらんと志を立てしめるのは高等学校の教授であり...、高木貞治の裡に潜在する数学的天分を見出しこれを自覚せしめたのは(第三高等学校の)河合の重要な功績である」(高瀬正仁著「高木貞治とその時代」より)。数学の将来は皆さんの掌中です。よい問題を示して、才能豊かな高校生を数学の世界に引き込みましょう。